

ヲ殺セバ名ヲ求メ
ルタノニ非ス名ヲ
バ求ムル為ソデナ
クシテ縱シテ又求
ラハ是レ思徳ニ感
シテ來ラシムルニ
偶一特リ一人ニ
義ナリ數人一回ノ
義ニ非ス猶ホ一度
ト云フ
カ如ク立異爲
高 異ハ帶ニカハ
リタルヲニテ
人々ノ思ハ又常ニ
カハリシ法ヲ立テ
人ノ及ハヌホドノ
高尚ナル事ヲスル
逆情干譽人
ニモトリサカフテ
無理ニ出來ヌヲ
為シテ名譽ヲ求
メトルヲセヌ

情ニ挽キ合セ案ヲ
斷ツ、
楚材云常法ノ二字
ヲ提ケ出シ、囚ヲ縱
ツノ失顯然ナリ、
介軒云結束ノ二語、
斷シ得テ截然ナリ、
茅坤云先キニ聖人
ヲ説ク堯舜三王ニ
引キ入ル所以ニシテ
楚材云前ニ堯舜三
王ヲ説カス智テ後
ノ結ニ在リ、緯盡テ
意窮リナシ、
山陽云結處ハ辭立
千仞、
又云若シ太宗ヲ責
メテ之ヲ結ベハ則

無識者ノ妄リニ之ヲ傳フル耳、假設禹
湯ニシテ而シテ此ヲ為セバ、一ハ姫。近
ク、一ハ巫。近シ、其異ヲ立テ譽ヲ
干ル也、孰レカ焉ヨリ甚カラシク、
金聖嘆評 此論刀斧ノ氣アリ、横ニ斫リ、豎
ニ斫テ、澤モ怒ス無シ、之ヲ讀テ
人ノ氣力
ヲ増ス、

林西仲評 歐公人情ノ上ニ本キ勸ヒ出
下ヲ賊ヒ上ヲ賊フニ語ヲ以テ
當年上下隱衷ヲ斷レ盡ス、總テ
是レ太宗名ヲ好ムノ所為ニ、
沈確士評 怨女三千ヲ放チ宮ヲ出シ、死囚
四百來テ獄ニ歸ス、此レ太宗盛
徳ノ事、而シテ歐公以テ人情ニ近カラ
スト為ス者、常ト為ス可カラサルニ縁
ル、後世口ヲ藉テ以テ其名ヲ好ムノ舉
ヲ行フヲ恐ル也、子産乘輿人ヲ濟ス
孟子其惠而政ヲ為スヲ知ラスト謂ス
正ニ是レ此ノ意ニ、○囚ヲ縱ス事後漢
戴封已ニ之ヲ行フ唐ノ太宗ニ始
ラサル也、戴封ハ獨行傳中ニアリ、

頼山陽評 柳州ハ此ノ簡嚴峭拔アリテ而
シテ此ノ縱橫反覆無シ、三蘇此
ノ簡嚴峻拔無シ、

チ凡筆ト為ス故ニ
管面ヨリ責ム、
弘庵云上文ニ應ス、
呂東萊評文最モ緊
シク曲折シ、辨論ハ人ヲ驚カス險語ナリ、精神ノ聚ル處ハ詞ハ盡キテ意未タ盡キズ
此ノ篇反覆血脈アリ、 呂雅山評永叔ノ文ハ古今ノ變態ヲ窮メ極ム、卿雲ノ風ニ
從ヒ、卷舒萬狀トルガ如シ、常理ヲ以テ待ツベカラザル也、 茅鹿門評文章舒餘婉
曲ニノ事理ヲ説キ盡シ、人情ヲ曲ニ盡スハ唯歐公之ヲ得タリ、 楚材評太宗ノ囚
ヲ縱ス、囚自カラ來リ歸ス、俱ニ常ニ反クノ事ト為ス、先ツ人情ニ近カラザルヲ以テ
斷シ定ム、末ニ常法ト為ス可カラザルヲ以テ之ヲ結ブ、自カラ是レ千古ノ正論、通篇
雄辯深刻、一步一步ヨリ緊久、驟閃處無カルベシ、此等ノ筆力刀所斧截スル如ク、快利
雙ヒ無キニ、 歸震川曰、人結尾ノ處ニ于テ、多ク省略ス、而シテ謂ク文ノ工夫ヲ用テ
ル結尾ニ在ラスト、殊ニ知ラス一篇ノ命脈ハ此ニ在ルヲ、結末ハ言盡テ意ノ窮リナ
キヲ要トス、清膚ニテ三嘆シ餘音アル如キ、方ニ妙手ト為ス、歐陽子ノ縱囚論以テ式
ト為スベシ、韓公ノ原道モ亦參ニ看ルベシ、

春秋論

歐陽廬陵

春秋論 歐陽云春秋論三篇

此論三篇アリ 是下篇ナリ 弒逆 君父ヲ殺スルヲ云ニ反逆ヲクハ 弘庵云、主意ハ趙盾 許止皆實ニ弒スト 為ス春秋書スル所 疑フベカラズ、 呂東萊云、三子ノ論 攻ノズレテ自ラ 敗ル中ニ就テ輒字 侮字ハ的ヲ破ルノ 言語ナリ、 弘庵云、此ノ起リハ 冒ニ似テ冒ニ非ス、 冒ハ必ス一段ノ議 論ヲ設ク是ハ乃チ

春秋宣公ノ二年ニ趙盾弒其君夷 鼻ト書ク左傳ニハ趙穿弒靈公趙 盾為正卿亡ケテ不越境入テ不討 賊故ニ董狐書ノ曰趙盾弒其君ト 此ノ文ノ非ヲ駁シ罪趙盾ニ在リ トス、文亦反題格ヲ用テ一題三事 論

弒逆大惡也其為罪也莫贖 大惡ノ字提ク 下大惡字ヲ解 十三層ト為ス、大惡 故ニ贖フコトナラヌ、其於人也不容其在法 也無赦、大惡ノ如此 法施於人雖小必謹、小 猶ホ且 況舉大法而加大惡乎、法ヲ施ス尤 ツ謹ム、況舉大法而加大惡乎、法ヲ施ス尤 者 既輒加之又輒赦之則自侮其法而人不 良、春秋用法不如是之輕易也、浦云、輒加輒 法ニ非ルヲ説キ、未了語ヲ用テ論ヲ

赤ノ三子、皆各傳ヲ 作リ春秋ヲ説クニ、 非實弒 心実 カラ 見乎 殺レタノ 經 三子ノ春秋ノ 大罪ニユ、經文ニハ 再ト出サヌ法ナル 三趙盾ハ君ヲ殺セ 後ニ又經文ニ見 尤ルヲ以テ、三子皆 盾ノ實ニ弒心ナキ ヲ説キ赦 輕以 ストスル、 大惡 輕ハミ 頑然 木石土塊 ノ如ク無 智ニシテ恥ヲ知ラ ザル、狀ヲ云フ辞ニ シテヘイキニナリ テキヨロリクワン

本事ニ就テ論シ起 ス、 山陽云、不如是之輕 易也、非春秋之意也、 此決知其不然也、二 次、此可知其謬傳也、 凡五次ノ結、皆未了 ノ語ヲ為ス、以テ餘 地ヲ留ル妙、 沈確士云、此ニ盾賊 ヲ討セズ、而レドモ 實ニ弒スルニ非ル ノ一説ヲ駁レ去ル、 茅坤云、此ニ至リ左 右ヨリ攔ミ説ク亦 攻撃辨難ノ法ニ、 謝云、前ノ冒頭ノ春 秋用意、不如是輕易

起 三子、説春秋書趙盾以不討賊、故加之大 惡而以盾非實弒則又復見乎經以明盾之 無罪、三子ノ書傳ヲ 叙シ、案ヲ立テ、是輒加之而輒赦之、爾 上文ノ案ヲ斷シ畢リ、以盾為無弒心乎、上 徐ニ下文ヲ説キ起ス、以盾為無弒心乎、非 實弒ヲ承ケケ、其可輕以大惡加之、輕字上ノ 疑問ヲ設ク、其可輕以大惡加之、輕字上ノ 疑、疑案ノ弒心 以盾不討賊情可責而宜加 之乎、賊ヲ討セサルヲ 則其後頑然未嘗討 賊既不改過以自贖、何為遽赦使同無罪之 人、上ニ二ノ乎字ヲ下ニ疑案ヲ起シ、其 於進退皆不可、此非春秋意也、浦云、兩面ヨ 以テ輒ク加エ、輒ク赦スヲ辨ス、決ノ經意 非ス、以上盾ニ就テ盾ヲ言ヒ、以下趙穿

便蒙一ノ三ノ五ノ下

七二

トシテ井 遽ニハ
武曾云折レ得テ到
ハ

カ、進退 進ハ
ミ、退ハ大惡ヲ加
工退クハ皆春秋ノ
法ナリ 復讐 君
ヲシテニ仇撃
ヲスルニシテ
刑 失ハ時ヲクシ
ハツスナリ、刑罰
ヲ加エルヘキニ加
エヌ

不較可
較ハ物ヲ比ス
ルナリ、クニ
テミストモ
シレテイル 首罪
殺逆ヲ行ヒシ
發覺人ノ一 無
辜 ツミナキ
受

弘庵云、三段ハ趙穿
實ニ弑スルノ説ヲ
駁ス、
沈確士云、此ニ趙穿
ヲ責メサルノ一説
ヲ駁ス、
劉亭云、此ノ一段ハ
則幸ニ免ル、ト疑
似トフ説ク、
弘庵云、四段ハ幸ニ
免ル、ヲ得ザルト、
疑似明ニスル所口

有ル兩事ヲ揭ケテ
柱ト為シ、春秋ノ意
ニ非ル也、一旬ヲ
申不明ニス、
呂雅山云、左右ヨリ
攔説シ逃ル、處ナ
シ、中ニ就テ果有果
無ノ字是ニ、
儲同人云、古人ノ論
ヲ作ル、必ス一段設
身ノ處ノ地、確乎ト
不拔ノ處アリ、然ル
後其論磨セス、此ノ
文是レニ、
沈確士云、意ノ到ラ
サルナク筆曲リテ
達スルハ潮水上ル
時浦淑灣港ミナ満

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

大惡 盾ニ弑逆
ノ大惡ノ
罪ヲ負 幸免 仕
ハセル 疑似
ヨク罪ヲ
ノガレル 疑似
者 仕方惡ルキニ
マギラハシク
分明ニナ
ラヌト、 是非

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

ヲ將テ夫ミ説ク、○以上第二段、進退ノニ
字ヲ下シ、三子ノ盾ヲ進退レ書スルハ、孔
子春秋ヲ作ルノ意ニ非ス 趙穿弑君大惡
ト、非實弑ノ疑案ヲ斷ス、
對レ説ク、 大惡也、盾不討賊、不能復讐而
失刑于下二者不較可知、盾ノ罪輕ク、穿ノ
就使盾為可責然穿焉得免也、今免首罪為
善人、對看ス、使無辜者受大惡此決知其不
然也、以上第三段、趙盾賊ヲ討セサルヲ
秋之法、浦云、春秋ノ法ハ 使為惡者不得幸
免、疑似者有所辨明、此所謂是非之公也、惡
為スモノ赦サス、疑似ノ者辨
解セシムルハ、是非之公ナリ、據三子之説
浦云、三子ノ説ハ、初靈公欲殺盾盾走而免
傳文ノ技難ナリ、

穿、盾族也、遂弑公而盾不討、其迹涉於與弑
矣、盾ノ穿ヲ討セザルニ因テ、之ヲ見ルニ
タリ、此疑似難明之事、聖人尤當求情責實
而明白之、春秋ノ法ヲ以テ、三 使盾果有弑
心乎、則自然罪在盾矣、不得曰、為法受惡而
稱其賢也、一歩ヲ進メ、三 使果無弑心乎、則
當為之辨明、必先正穿之惡、使罪有所歸、大
惡ノ罪ヲ、然後責盾、縱賊、則穿之大惡不可
定ムベシ、

幸而免、盾疑似之迹獲辨而不討之責亦不
得辭、上文果有果無ヲ以テ左右ヨリ、如此
則是非善惡明矣、三子ニ代リ處置ヲ施シ、
上ノ是非之公也ニ應ジ、

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

便蒙 一 五 九 厄 平 木

是ヲ是ト
之公 是非ヲ非
トスルノ、私シナ
ク公平ニナルト、
親族ノ分
族 家類族ヲ云、
涉於與弑 干
ノ涉ニテ關係ノ
ナリ、君ヲ弑シタル
ナカニイル、求情
カ、リテ、
責實 情實ノ何
如ヲヨク

吟味ス 為法受

ルガ如シ

趙盾執政トナリ君ヲ弑スル賊ヲ討ヌハ是レ法ニ於テ弑逆ヲ行ニ同シキヲ以テ惡名

有所

儲同人云迂儒ノ見識ハ類不然リ其自

歸者モハキト定マル幸弑 趙穿ノヲ

ヲ商君ニ隣スルヲ知ラサル也

用情

向ノ詐リ

ト判断 矯激之

山陽云前段五次ハ皆搖曳之筆ヲ作レ

為 無理ニソウジヤトスル仕方

斷セント欲シ斷セ

忠恕

實答語ヲ為レテ一語

左右ノ辨ヲ括束ス今為惡者獲免而疑似之人陷於

大惡此決知其不然也 浦云盾ヲ以テ穿ヲ

衡ル亦兩面ヨリ推勘ス傳ト經ト以テ見

レハ則經ニ從ヒ以テ傳ヲ舍ルニ如カズ

○以上第四段毎段未了語ヲ用テ餘地

若 曰盾不討賊有幸弑之心與自弑同故寧捨

穿而罪盾此乃逆詐用情之吏矯激之為爾

非孔子忠恕春秋以王道治人之法也 再

一曲折更ニ遺ル意ナレ○若字ヲ以テ筆

ヲ轉メ三子ノ非ヲ辨駁シ逃路無ラ使ム

孔子患舊史是非錯亂而善惡不明所

以修春秋就令舊史如此其肯從而不正之

乎其肯從而稱美又教人以越境逃惡乎此

可知其謬傳也 浦云仍ホ輒ク加ヘ春秋ヲ

ル始ノ一游リ反覆論スルニモ從フベカ

ラサルヲ三子ノ說ノ非ナルヲ判然タリ

故ニ前ニ未了語ヲ下シ斷セサルモ此ニ

至リ忽チ謬傳ノ字ヲ下シ謬リヲ斷決シ

了ル問者曰然則夷臯孰弑之曰孔子所書

是矣趙盾弑其君也 浦云經ニ據テ盾ヲ判

世子ヲ論ス突トノ起ル三筆奇趣アリ○

以上第五段問答語ヲ下シ忽チ趙盾ヲ把

テ誅ヲ見カハ今有一人焉父病躬進藥而不

嘗ノ前ノ一筆暗ニ許又有一人焉父病而不

躬進藥一筆而二父皆死後ノ一筆ト中又

有一人焉操刃以殺其父使吏治之是三人

者其罪同乎曰雖庸吏猶知其不可同也躬

便蒙 卷之二

ヲ以テ人ニ交リ接スヲ忠ト云ヒ己レノ痛苦ヲ以テ人ノ痛苦ヲ推シ量ルヲ怒ト王道 王者ノ所謂是ヲ是トシ惡ヲ惡トスル公平ノ道ヲ以テ天下ヲ治ムル是レ春秋ノ法ナリ 舊史是非 錯亂 春秋ノ書 周公ノ作ナリ後世ニ至リ書法亂レテ是非善惡ゴタクニ入リ亂レ分ラヌニナリ故ニ孔子周公ノ書法ニ本ツキ褒貶ヲ正シ修メシム 傳 アヤマリタル書キ傳ヘナリテ理尤モ勝ル父病

斷定スル筆、鍊ヲ斷ルカ如シ、又云疊山此ノ篇ヲ選ブ所以ハ此處ノ筆力雄健ヲ取ル、三蘇ト雖ト及バズ武曹云孔子所書ノ二句倒マニ出ス下半篇ノ作法ト迴ニ列ニ、謝云五節ハ復非春秋之意也ノ句意ヲ申ヌ、武曹云許止ノ事ニ落シ到ル筆意超忽タリ、疊山云此段辨シ得

臆說分
弘庵云八段ハ三子ノ説信ス可カラザ

了簡ヲ以テ得於ル者有ルヲ言フ

云フ説ニ得於三錫爵云此レ趙盾

許止トノ事ヲ合セ

ヘキ、尹氏卒説キ而シテ之ヲ帰

春秋隱公ノ三年ニ

アリ公羊傳ニ天子

之大夫ト為ス左傳

ニ君氏卒ト為シ隱

公ノ母氏子トナス

隱公母ヲ以テ君氏

ト為ス正卿ハ

弘庵云九段ハ三子

義例實ニ信スベ

カラサルヲ言フ

呂伯恭云他人ヲ難

フル十分ニ服スル

ヲ要ス須ラク是レ

十分ニ顯處ヲ益ダ

他ノノ詞ヲ措クベ

キ無ラ令ムベシ

謝云此ニ三子ノ説

盡ク信スベカラザ

ルヲ明ニス

沈確士云三子ノ異

同甚ク多ク此レ偶

其一ヲ舉ク

茅坤云此一証ア

難者曰曷為盾復見于經許悼公曷為書葬

浦云此ノ一段盾許ヲ並ベ舉ケテ總束ス

○此ニ盾ト許止ノ兩難問ヲ設ケ下文ニ

應ス曰弑君之臣不見經此自三子説爾果

聖人法乎趙盾復夕經ニ見悼公之葬且安

知其不討賊而書葬也又三子ノ説

弑見經後四年吳敗許師又十有八年當魯

定公之四年許男始見於經而不名許之書

於經者略矣止之事跡不可得而知也

段經文ニ許ノ世子ノ死生ト賊ヲ討スル

ヤ否ヤノ事跡ノ略セシテ以テ明ニ知ル

ベカラス經文ヲ以テ確

據ト為スヘキヲ斷ス難者曰三子之説

非其臆説也其得於所傳如此辨駁既終

ニ出ルヲ云ヒ後

難問ヲ發ス然則所傳者皆不可信乎

曰傳聞何可盡信公羊穀梁以尹氏卒為正

卿左氏以尹氏卒為隱母一以為男子一以

為婦人得於所傳者蓋如此是可盡信乎

ノ信スヘカラサル證ヲ舉ケ以テ

三子ノ説ヲ棄捨シ總收ヲ為ス

儲同人評此ノ二獄ハ關係甚ク大ナリ

浦二田評兩開分ケ論ス格議俱ニ矯レ其

開發スベシ世徒ニ言フ所舉家ノ經旨

ニ與制スル無キヲ以テ皆撥棄願ミス

信ニ夏蟲ハ與ニ水ヲ

語ルニ足ラサル也

沈確士評前半ハ趙盾實ニ君ヲ弑スルヲ

論シ後半ハ許世子蒯聶ヲ嘗ノサ

ルニ非ルヲ論シ首篇趙盾許世子ノ二

事ヲ申テ解久筆鋒ノ到ル所葛藤ヲ斬

便蒙一ノ一七色平下

二二止

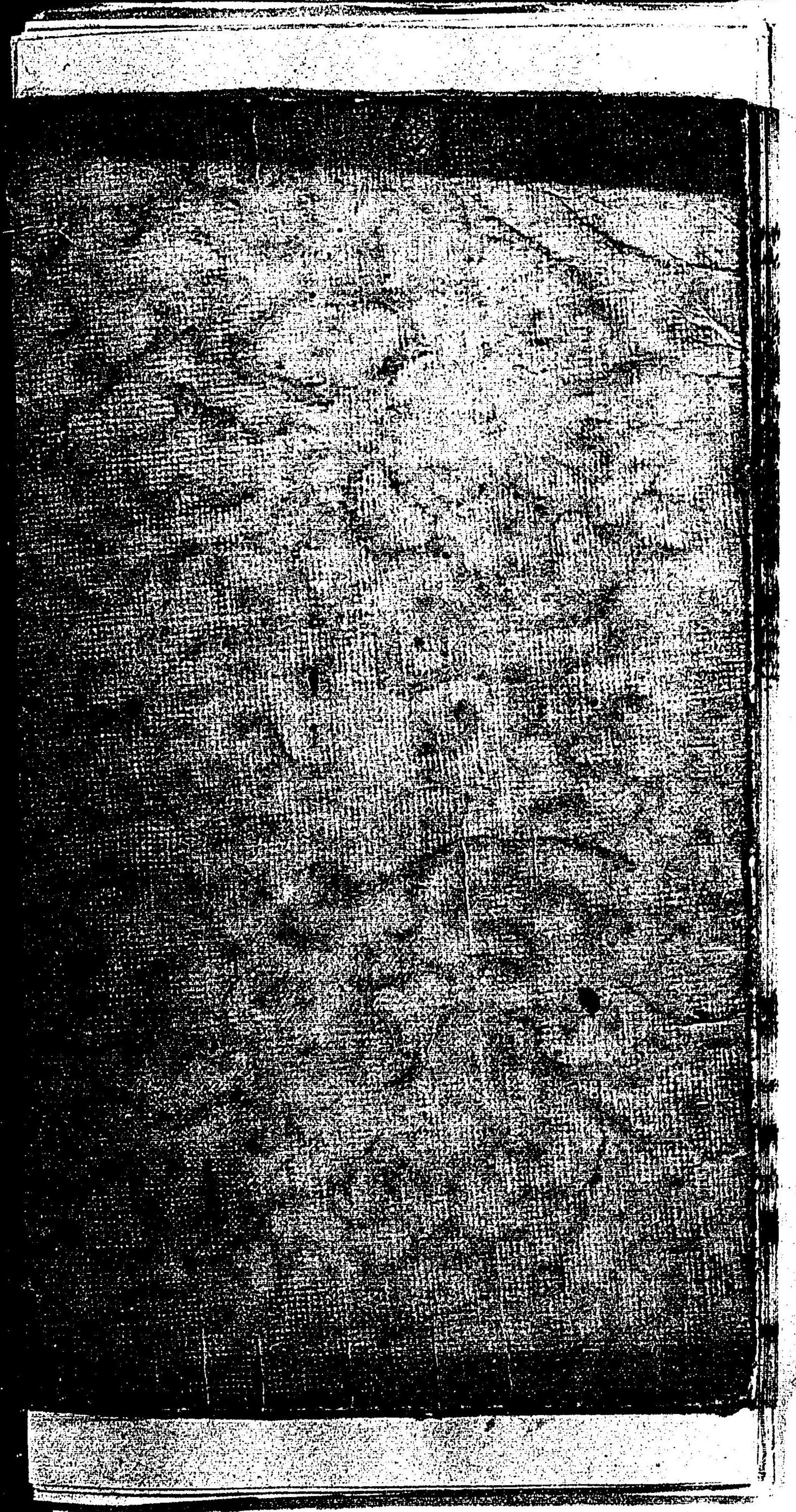
し口ト

李方叔評歐公春秋論ヲ作ル、最モ春秋ノ法ヲ胡瑗孫明復ニ得タリ、故ニ張昺謹嚴、司馬子長ト雖モ、以テ復タ加フル無シ、白志宏評歐陽公ノ文ヲ讀ムニ端嚴ニシテ而メ刺ナラス、温厚ニシテ而メ泛ナラス、太平ノ氣勢然トシテ毫楮ノ間ニ見ハル、呂東萊評此ノ篇是レ反題格、韓文ノ諍臣ト相類ス、排斥ノ辭ハ大抵人ヲ斥ケ須ラク多方ニシテ説キ他ヲメ逃ル、処無ラ教ム、此ノ前ノ數段見ルベシ、茅坤評又ニ篇ノ盡サハル所ヲ發メ更ニ洗發辨析前儒ノ未ダ有ラサル所ナリ、

リ盡シ、亂賊ヲ既ニ死スルニ誅ス此ノ文有リ焉○賈充、成濟ノ高貴卿公ヲ弒スルヲ觀レハ、則ク及テ攝ル者二人ト雖モ、而ノ君ヲ弒スル者ハ司馬照也、然レハ則ク夷臯ノ弒、趙穿ハ賈充成濟タリ、趙盾ハ司馬昭タリ、就令歸テ而メ賊ヲ討ツモ、亦其首惡ノ罪ヲ恕スヲ得ス、論ヲ作ル須ク直チニ其心ヲ刺スベシ、方

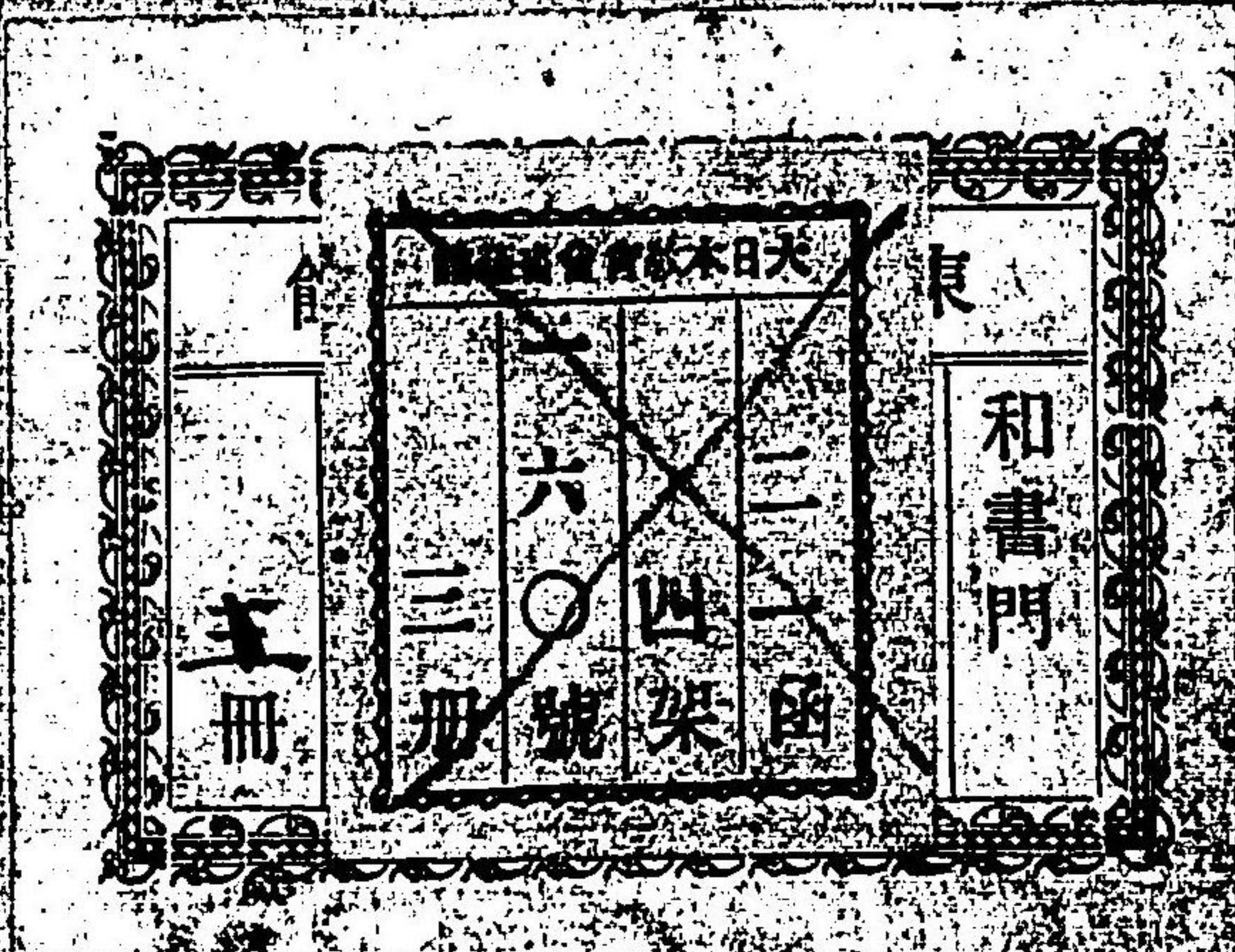
瀉山陽評春秋論前二篇ノ結處ハ、皆老辣帶ゾ、乃チ變化ヲ見ル、○止之事跡云々、此篇ノ結尾、難者云々ノ一段、三篇ノ結尾

便蒙 譯義 文章軌範評林卷之二 終



特34

219



100699-001-2

特34-219

文章軌範評林 (便蒙積義)

平山 政洸 / 編

M18

DBW-1750

